

# 京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会

東雲会京阪神支部会報●第12号

<http://www.asahi-net.or.jp/~hf3s-okd/higashi/>

連絡先 岡田俊一(山脈12回)

神戸市垂水区神和台2-2-9



## 京阪神東雲会のこと

宇野田 久子（山脈8回）

昨年は永年事務局としてお世話くださった上田二郎（柏11）さん、会長をなさってくださった北垣智浩（柏15）さんが鬼籍に入られ、柏葉の方々が随分少なくなりました。私は初代松浦昇（柏1）会長時代より京阪神東雲会の運営のお手伝いをして来ましたので、少し思い出を綴らせて頂きます。

京阪神東雲会への参加は友人の誘いによるもので、たしか芦屋の方の会場だったと思いますが、柏葉の卒業生が殆どで松浦会長以下皆様大変お元気で賑やかでした。大学教授、判事、企業のサラリーマン、自営業の社長さん・・実に色々の職業の方がおられ多士済々、話題も豊富でした。山脈の卒業生は二、三回の方々が主で柏葉に比べずっと少ない出席者でした。副会長として山脈二回の梅仙堂岩おこしの社長の前田博三さんがいらっしゃいましたが、若くして鬼籍に入れました。その後この回あたりの方々の出席者が減ったように思います。前田さんご存命の頃の幹事会は国鉄大阪駅の北・大阪鉄道管理局の北側向いにあった前田さんの会社のビルの二階の応接室で開催されていました。

松浦会長、谷千秋（柏3）会長、吉田登（柏3）会長、廣岡幸治（柏3）会長時代ずっとお手伝いしておりました。幹事会の時いつも山脈の出席者を如何にして増やすかという話題となりました。当時の参加者の殆んどが柏葉で山脈は十名前後、女性は一、二名といった状況で、妙案も出ぬまま打ち過ぎておりました。北垣智浩（柏15）会長の時、野田幸生（山4）さんがはじめて出席され、山脈の出席状況をご覧になられ、

色々案を出され今のような学年毎の当番幹事制が始まりました。各期それぞれ努力して出席者が百五十名近い会が開催されました。私がお手伝いしていた頃は、私が当日会費を集め会長にお渡しし、支払等は会長にお任せするといった状況でした。野田幸生さんのお陰で京阪神東雲会として会則が出来、毎年十一月第三土曜日に総会・懇親会が開催されるようになりました。学年毎の幹事担当で、毎年趣向がこらされ、若い人達の出席が増え本当にうれしく思っています。私は京阪神東雲会を消滅させてはならないという思いで歴代会長に協力してきましたが、野田幸生さんのお陰でもう消滅の心配のない会になったこと、野田幸生さんにただただ感謝致しております。野田幸生さんは会長もして下さり京阪神東雲会の中興の祖でいらっしゃいます。又上田二郎（柏11）さんは事務局として初代松浦会長の時よりずっとお世話を下さいまして陰の力大の方でした。昨年の会の時お亡くなりになられたと伺い吃驚致しました。前年の会の時、“又来年会おうね、元気でね”と仰って下さったこと忘れられません。私がお手伝いしていた頃の柏葉の方々はもう殆どいらっしゃいません。時の流れです。私自身も七十一歳となり、出席しますと山脈の上の方になってしましましたが健康の許す限り出席させて頂こうと思っております。

同窓生の絆を結んでいる会報「京阪神 東雲」は岡田俊一（山12）さんのご尽力により昨年で11号の発刊となりました。一年に一度の発行とはいえ、大変なご苦労をなさっていらっしゃることと拝察致しております。ありがとうございます。上林武夫会長（山10）はじめ役員の皆様には大変お世話になりますが、京阪神東雲会が発展しますようよろしくお願ひ致します。（H21/6/11記）

【写真は二中OBの方々の校歌斉唱風景。(数字は年)  
京阪神東雲の題字は上田二郎氏(柏11)によります】

# たかがマラソン されどマラソン

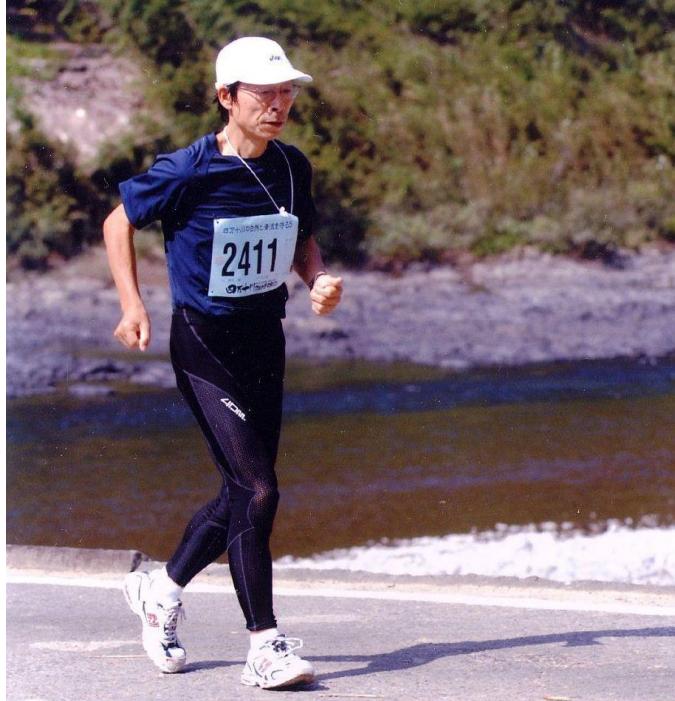
橋本巖(山脈10回) 第1回

## ◇自己紹介

1941年 気高郡吉岡村(現鳥取市吉岡温泉町)に生まれる  
 1959年 鳥取東高卒業  
 同年 社会保険診療報酬支払基金入職  
 2001年 定年退職  
 趣味 スポーツ観戦、マラソン、やきもの鑑賞・収集、  
 番仕事  
 著書 『女性と中高年へのジョギング・マラソンのすすめ』(清風堂書店)、『医療費の審査』(同)、『保険審査Q&A』(医学通信社)、『木地師俳人箇井寸風』(鳥取今井書店)、絵本『あしおかちようじゅ』(同)  
 他  
 職業 年金生活者兼自称フリーライター  
 大阪府寝屋川市在住

## ◇プロローグ

東高を卒業したのは、茫々50年も昔のことだ。学生時代、一体何をしていたのだろうか。勉強するでもなし、遊ぶでもなし。皆目記憶にない。高校生活の思い出は、微かに記憶の海から浮き上るとすれば、デコ



第12回 四万十川ウルトラマラソン  
 2006年10月15日 於・高知県四万十市・十和村

レーションを担いだ市中行進と校内マラソン程度である。この二つは長い間、東高の伝統行事だったが、時代の変化というか交通事情などがあつたようで現在は行われていないと聞く。残念だともいえるが、どちらも真面目にやつたような記憶もない者にはそう決めつける権利はないさうだ。

走ること、マラソンについて書く羽目になったが、走ることが好きだったわけではない。それどころか、大の苦手だった。遊びや球技の中に多少走ることが伴つても苦痛ではなかつたが、こと徒競走については苦い思い出ばかりである。

ところが、50歳になった夏、ふと走ってみようという気になった。といつても、いきなり走れるものではない。最初は100mがせいぜいだったが、ヨタヨタ走るうちに徐々に距離が伸びた。走ること=速いこと、という子どもの頃に擦り込まれた概念を捨てたのが良かったのかもしれない。走り方はゆっくりで、最近流行の走法でいえば「にこにこペース」だが、フルマラソンを走り、ばかげたことにウルトラマラソンにまで『脚を染めて』しまつた。いつまで走ることができるか判らないが、今では走ることは生活の一部になっている。

ともあれ、会長から5回分を書け、と命じられた。安請け合いをしたもの、考えてみれば5年は生きなければ約束は果たせない。自信はないのだが、まあ、72歳までの目標ができたと考えればそれも良いのではないかと思い直し、ヨタヨタとゴールをめざすこととした次第である。走ることが嫌いなお方も、どうかお付き合いをお願いしたい。

## ◇走ることは人間の証明

のっけから突拍子もない見出しを付けてしまつたが、真面目な話で、筆者が走りながらいろいろ考察した末の到達点である。

地上に生息するほとんどの動物は走る。肉食動物は、獲物を捕食するためには走らねばならない。それができなければ生きていけないからだ。また、走れない草食動物も身の安全を保てない。走ることは生きること、

## 女性と中高年への ジョギング・マラソン のすすめ

橋本巖



### 本書を推薦します。

あなたも、きっと走りたくなる!  
 50才から走り始めた著者が、心をこめて贈るマラソンエッセイ。

マラソンランナー  
 オリジナルガイドブック  
**有森裕子**

ジョギング・マラソンアドバイザー  
 ドライアーリー  
**高石ともや**

ランニング学会会員  
 日本骨幹筋  
**山西哲郎**

種の保存に欠かせない行為である。動物の子どもがじやれて走るのは、生きるために訓練なのだ。これらは、本能のおもむくままの走り、動物脳の走りである。

人間も例外ではなく、動物脳の走りをする。ただ、人間は、他の動物と違ってさらに高度な走りもする。つまり、走ることを目的に走ることができる、ということだ。記録を狙い、勝利を目指し、時には楽しみ、あるいは健康のために走る。もちろん、ぼんやりであってもよい。これこそが、人間が二足歩行によって作り上げた人間脳による走りである。スポーツは、人間にしかできない営みである。その営みの根底のすべてに走るということがあるという点を直視すれば、走るという単純な行為は、奥が深い極めて人間的な営みであるといつても過言ではない。これは7~8年走った後に到達した素人の着想であるが、あながち妄想ではないと思っている。

### ◇長距離走が人類を進化させた

英国の科学誌・ネイチャーの04年11月号に、「人類の直立した体形を作るのに長距離走が重大な役割を果たした」という学説が発表された。これは、ユタ大学のデンス・ブラング教授とハーバード大学のダニエル・リーバーマン教授が唱えたものだ。

リーバーマン教授は、「もし、あなたが、人類が弓矢を使い出す以前に生まれていたとしたなら、ランニングをせずに生きることは困難であったでしょう」とも述べている。

この学説が発表された20年以上も前、米国人のジェイムス・フィックスは次のように述べている。

「果てしない人間の歴史を逆戻りして原始に帰る。これを実行しているのがランナーと思うのです。1万年も前、果実と木の実と野菜を食べ、コンスタントに身体を動かし、心臓も肺も筋肉も快調に保っていた、そんな時代の生活がどんな風だったのか、ランナーたちは身をもって体験しているのです。現代人がもうほとんどやらなくなってしまったこと、つまり古代人あるいはそれ以前の原始とのつながりを確認しながら作業をしているだけのことなのです。このことこそ、ランニングをするものがいつも一人で走りながら楽しんでいる最大の秘密ではないか。(『奇跡のランニング』CBSソニー出版1980年)」

筆者は古代人とのつながりを意識して走ることはないが、フィックスの指摘はリーバーマンらの研究のヒントになったのではないかと思っている。

ドイツ生まれで米国籍を持ち、自らも優秀なランナーであった生物学者のベルンド・ハインリッテは、著書『人はなぜ走るのか』(清流出版2006年)で興味ある主張をしている。紙数の関係があるので、筆者なりの要約で紹介したい。

遠い昔、現代人の先輩は、食べ物を求めて森から草原に進出した。草原は危険だったが二足で立つことで

視野が広がり、自由になった手で道具を使って身を守り狩りすることも可能になった。直立することによって、熱帯の降り注ぐ太陽熱を受ける度合いを減少させ、同時に風を受ける体面積を増やして熱を発散しやすくなった。そのことが、走る持久力を備えることになった。チーターは時速100kmで走るが、5分も続かない。人間はチーターのようには速く走れないが、長い距離を持続して走ることができる。それによって確実に獲物を獲得することが可能になった。と、まあこんな内容である。

人類が生き延び進化した背景には、走ることがあったのである。走ることによって前傾姿勢は直立姿勢に変化し、脳の発達をもたらした(もちろん、手の働きも脳の発達に関与した)。頭書のリーバーマンらの主張になるのである。

こう考えてみると、走ることはもっと重視されて然るべきだ。しかし、現実はそうなっていない。歩くことは奨励されても走ることはまだ軽視されている。走ると体内に活性酸素が発生するから高齢者にはふさわしくない、と真面目顔でいう医師もいる。厚生労働省の生活習慣病予防のための「健康所要量」においても、走る時間は週にたったの35分である。1日になると5分だが、これでは走る楽しみは味わえず、かえって走るのが嫌いになる人を増やすだけである。

少々理屈っぽい内容になってしまったが、次回からはもう少し肩の力を抜いて、走ることの効能と楽しさに接近していきたい。

(マラソン大会参加実績▼)

種目	回数	ベストタイム
ハーフマラソン	47	1:42:57
フルマラソン	38(2)	4:02:01
ウルトラマラソン	12(4)	—

・2009年03月現在 ( ) 内はリタイア回数

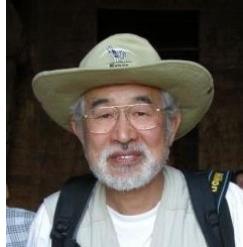
・ウルトラマラソンは100km~140km



鳥取マラソン(2008.3.16) 42.195km

# 僻地は活力の源

西尾康弘（山脈10回）



「果てしない草原に、焼けつく太陽の陽炎が波打っている。・・・」で始まる「沈まぬ太陽」（山崎豊子著）のサファリ描写を興奮する気持ちを抑えながら読んだ。

それから10余年後の平成19年2月、タンザニアのセレンゲッティ

国立公園に立っていた。朝5時、サバンナのロッジを出ると南十字星が輝く満天の星の下、暗闇と静寂の世界がある。やがて地平線から黄金色の太陽が顔を出し朝が押し寄せてくる。周囲はすべて地平線であり地球は本当に丸い。サファリカーはキリンを追い、ライオンが2m横を歩き、数千頭のシマウマやヌーの大群が目前を疾走する。チーターがシマウマの内臓を食べ、ハゲワシがその肉を狙って上空を飛ぶ光景に絶句。百頭超の象が砂塵を上げて前方30mを横断する。大きな太陽が真っ赤に輝きを増して地平線に沈んでいく。内臓が飛び出しそうな砂利道を1300km走り、アフリカ特有の赤い土埃を浴びて全身が砂塵まみれとなる。

同年7月、110年昔曾祖父が5年間生活したバンクーバーの風景に浸りたく、当時の原生林が残るカナディアンロックキーを歩いた。宿はカナダ最高峰マウントロブソン3954mの麓、1500mの岩壁に氷河を抱く南壁を真正面に見るログハウスだ。風呂は雪解け水の微細な砂混じりで開拓時代を彷彿させる。白夜の山陵を眺め昔もこんな風景かと静寂の「時空間」に身をおく。山歩きでは岩陰に可憐なクイーズ・カップやゴゼンタチバナを見つけ、可憐な花に目を奪われる。ヒーリークリーク・パスでは広大な斜面にグレーシャー・リリーが絨毯のように咲き乱れ、尾瀬沼のニッコウキスゲの比ではない。氷河湖はトルコブルーに輝き、湖によってミルキーやエメラルドとその色が異なる。氷河を抱くU字構は雪融け水が500mを超える滝となって落下する。

半年間にサバンナに立ち、ロッキー山脈を歩いたのが不思議である。手術後には想像も出来ない行動であり、「生きている喜び」を実感する。イスへの出発2日前65才直後の平成17年6月26日朝5時、前兆もなく突然に胸部「解離性大動脈瘤」（注）に襲われ呼吸困難に陥った。9時間の大手術、心臓から脳へ30cm余の人工血管移植挿入の4日目、意識を回復するもイスで重傷を負い、飛行機で輸送中と錯覚もした。12日間のICUでは「動いてはダメ」と叱責する看護師の声が響いた。生存率20%と聞かされて絶望の深淵に陥



ったが、懸念された記憶喪失や言語障害もなく、脳裏をよぎるのは

- ・モルジブやパラオでのスキーバーダイビング
- ・シルクロード3100km走破、ヒマラヤ山歩き
- ・氷点下40度のアラスカでのオーロラ観測

など元気な時の行動であった。退院後早朝5時、自宅周辺での歩行訓練は200m歩くと休憩の連続であった。その翌年9月、妻の支援を得て体力回復の確認の旅に出た。北京郊外の万里の長城を歩き、「歩く喜び」を満喫する。病床を見舞い励ましてくれた孫も3人から4人に増えた。病床で孫たちに「3年後、サンゴ礁のパラオへ泳ぎに行こう」と約束、これは生きたいとの執念が言わせた言葉である。

旅は2度と不可能と思っていたのに、肺活量は衰えたが脚力は回復した。突然に襲ってくる手術跡の痛みに対峙し、生きる執念を維持する手段として「外国の僻地への旅」に挑戦する。僻地は活力の源である。「必ず死ぬ、現在を大切に生きて楽しむ」の思いで昨年秋、砂漠と深い渓谷が続く米国コロラド川流域4000kmに18.4億年の地殻変動と侵食を繰返す地球の歴史を訪ねる。そして今年2月は砂漠の中に4600年昔の遺跡に人類の歴史を訪ねてエジプトのナイル川沿いにスーダン国境のアブシンベルから地中海のアレキサン드리アまで1300kmを11日間にわたって走破しその間にカイロでテロが発生する。主治医はこんな患者は私の記憶にないと云う。旅券の余白は残り少ないと気が力で日々を楽しむ。

(注)

- ・石原裕次郎が患ったのと同じ病気で同部位、当時の生存率は3%と云われた
- ・10期生の鳥取在住の医師は「当時の鳥取では死亡の確率大きい」という

【写真説明】米国アリゾナ州の「モンументバレー」はナバホ族居留地にある。ジョンフォード監督の西部劇「駆馬車」「黄色いリボン」などでお馴染みの光景。平成20年9撮影。

## 返信葉書(平成20年度)の 近況報告葉書から

同窓生OB諸兄姉の消息をお知らせします。本紙も12号になりました。皆さんの“元気のもど”を本年度も返信葉書の近況欄に書いてお寄せください。

### 柏葉

★90才を過ぎても頭は元気ですが、足腰痛く毎日リハビリに通っています。(8回／鎌谷義治) ★日頃健康第一と通常努めています。最近、心身共に弱ったのかよくつまずいたりしております。日々注意して暮らしております。(18／山根昭一郎) ★私は2中4年2学期中退で海軍志願一終戦一高農(鳥大)卒、社会人で65歳まで働き、体力には自身があったが今80歳自分の身を守るのが大変です。鳥取東高の発展をいつまでも祈っています。(18／原田一美) ★時間が許す限り、ジムに通って健康に留意していますおかげさまで元気に毎日過ごしております。(22／藤田忠雄)

### 山脈

★先月、妻が階段から転落して頭部と大腿骨の手術をし、アルツハイマー症と進んでしまい介護におわれています。(2／吉村猛) ★半年間の木曽の山暮らしで秋のきのこ採りは楽しみの一つ。家の周りのカラマツ林によくはえるハナイゴケはみそ汁、つくだ煮、おろしだいこん、このこそばなどによく合い、とても美味。

(2／金谷充清) ★我々三期生のほとんどが今年は後期高齢者入りとなります。三期生同窓会も31回を迎えることとなり近畿25、関東5、鳥取3人三重1、高知1の参加をもって京都にて10／25開催の予定です。(3／岡田坦久) 開設以来40年の書道塾の指導者であることを感謝しております。(3／川岸美智子) ★私自身はその日暮らしの毎日ながら、いたって元気で趣味の園芸に精をだしています。(3／多賀輝美) ★加齢と共につぎつぎと発病し、日々その治療におおわれています。現在、流動食です。(4／中尾英昭) ★来年秋、東雲5回の同窓会を行なう予定です。錦秋の京都を計画しています。(5／中村信彦) ★10／5～6は6回生の同窓会で箱根湯本温泉です。介護4の夫をショートステーにあずけて参加します。6／稻場崇子) ★京阪神6回生だけで年間3、4回集まって老後をたのしんでおります。(6／村田幸子) ★夫婦が春秋2回私ども夫婦を旅行につれていってくれました。古希を迎え、記念に楽しい思い出になりました。(6／藤原日出男) ★人生致仕に至れど、身卯かもの功無きを憇ず。紅葉は春の花よりも実に赴きあり。晩成に努め度(7／湯村正健) ★堺市の小学校を定年退職後、続けて3年間の勤めを終えて目下悠々自適のまいにちですが、

以前の交通事故の後遺症が残って今だ、ロフトハンドを使っての歩行です。電車に乗ってでかけることが困難なのでやむなく欠席いたします。(7／久保薙八重子) ★西国三十三箇所巡りが終わり、四国八十八箇所遍路の旅に出ています。(8／下村美津江) ★小さな庭に花や野菜を植えたりして過ごしています。(9／山本節子) ★山脈9回50名で春京都に集合しました。(9／萬木けい子) ★常、走る、歩くの生活、交通費0円です。(10／一軸さゆり) ★今年のみなべ郷磯釣り大会は総重量賞は6位、イガミ賞は3位になりました。

(10／青葉輝尚) ★書類整理と印鑑登録証を入れたところがどこが失念。2年前の話です。今年、キャッシングカードで金を引き出すとき偶然でてきました。プロ野球王監督と同い年です。(10／岩崎素彦) ★今年10月に同期会で「くろよん旅行」に参加しました。(10／福田正恵) ★今年退職し、貸農園で野菜作りを楽しんでいます。週1回のゴルフで健康づくりをやっています。(11／鎌谷勉) ★現在、3つの合唱団の指導をしております。(11／田附和子) ★飼い犬のゴールデンレトリーバーの散歩を日課に平安に暮らしていますがステロイド治療2年目。無理をしないように心がけています。(11／澤田和子) ★老人ホームでの仕事を続けています。しかし、年来の肩痛で大好きなゴルフも心底楽しめません。(11／萬知行) ★キンゾク4年目の会社勤めを継続中です。(11／竹内忠利) ★鈴木亮介さんが同期でしたので、記事を興味深く拝見しました。私自身は今、畑を楽しんでいます。(11／鈴木富美子) ★大学史の執筆、郷土史研究、NPO法人活動支援などでいそがしくしております。(12／橋本弘之) ★当方土日祭日は特に忙しく働いています。健康である限り続けるつもりです。(13／石上道雄) ★家裁、県関係の仕事をしながら年甲斐も無く陸上の審判を行なっています。(13／西垣真知子) ★難病をかかえて生きていますので不安ですが、毎日明るい気持ちを持つように心掛けています。(14／豊國絹子) ★地域の活動に参加して毎日楽しい日々を送っています。

(14／野崎文子) ★平日は孫の保育園送迎、土日はミニバスケットボールの指導や試合のコーチ、審判と結構多忙な日々を過ごしています。(14／秋山克憲) ★小学校の嘱託員として3月まで努めます。尚、老人の世話を毎日頑張っています。(15／大城信香) ★京都文教短期大学の教員です。60を過ぎてさすがに老いを実感させられている毎日です。(16／大久保智) ★昨年より民生児童委員として多忙な毎日を過ごしています。(17／織田睦子) ★3月に定年退職しました。自由な時間がたっぷりとあり健康のため、水中ウォーキングを始めました。(17／津村淳子) ★日本の食料自給率は50パーセントをきり、安全な食糧生産が重要な問題となっていました。私は大地に足をふんばり、ぶどう作りに又こめづくりに年を感じながら頑張っています。(17／繁田秀江) ★同期会が阪急エキスポパ

一ヶで行われ鳥取から貸し切りバスで来阪、鳥取弁で懐かしいひとときを過ごしました。(17／和田節子)  
★小さな山あいのミニ高原で農業にパン工房にと楽しんでいます。水と空気がおいしいところです。(18／松岡明枝) ★大病で2度も手術をしましたが、現在はマイペースで店の仕事を頑張っています。還暦旅行でベトナムに行きました。(18／井垣光子)★

た。(18／井垣光子)★  
毎日ガーデニングと愛犬3匹の世話で忙しく  
結構楽しんでいます。

(18／三田良子) ★

鳥取に帰り、自然の恵みの中で生活しています。(19／山根文子)★  
初孫が生まれ年とったなあと感じています。

(19／福嶋純男) ★何  
太りなのか益々元気で  
います。年を取るごとに鳥取を懐かしく思う  
日々ですがなかなか帰  
郷も出来ず近くて遠い  
故郷です。(19 横川ひ  
とみ) ★来春ようやく  
上二人が就職します。

同時に夫が退職しますのでいよいよ私がフルに働くことになります。趣味を楽しみつつ出来る限り働くつもりです。(20／秋田幸子) ★義理の母の世話で明け暮れる毎日。先の予定がなかなかたちません。(22／山本陽子) ★今年の四月から勤務している学校は京都府で一番鳥取県に近い学校です。ただそれだけでも嬉しくてたまりません。純朴な地域と子どもたちに囲まれ、心癒される毎日です。(24／岸上真理) ★四月に母が急死、そして娘の結婚等々。あわただしく時が過ぎようやく落ち着こうとしています。が、体調をこわして通院中。皆さん お元気で。(24／村上真佐子) ★母が亡くなり、娘が結婚しそれなりの人生を進んでいます。仕事量も減らしつつ、自由な時間を有意義に過ごしたいと思っています。(24／村上雄二) ★この夏、卒業 35 周年同窓会があり、とても楽しい時を過ごしました。(24／加藤操) ★大学から京阪神に住んで鳥取より長くこちらにいますが、しゃべり方を聞くと、「田舎はどちら」と聞かれます。根本に鳥取があるのですね。東高祭もなつかしいです。(25／中嶋泰子) ★娘、大学 3 回生、息子高校 2 年生、もうひと踏ん張りの状況です。(25／原田洋一) ★子どもたちも大きくなり手はかかりませんが、あと 2 年程学資がかかります。自分の時間がもてるようになり、マイペースでやっています。(25／池内笑子) ★豊中の地で 53 歳に

なった現在、スポーツクラブや水彩画教室に通い、日々元気にしております。いってみたい気持ちは多々あるのですが、行く勇気がありません。(26／田村二葉) ★トイプードルを飼っています。愛犬とのウォーキングが日課です。(29／久野充) ★近くに住む義理の父母が80才を過ぎ私の出番が増えました。お

世話をしながら自分  
の老後に思いを巡ら

すこの頃です。(30／大西紀子) ★高校生の娘のPTA役員をしています。研修ツアーで劇団四季の「オペラ座の怪人」を見に行きます。(30／宮崎朋子) ★今年の1月、待望の

第1子が誕生し、大変ながらもおもしろく、また感動の連続です。

(34／深谷由美子)★  
大学院終了後、大阪の  
関西電力病院で臨床  
心理士として働いて  
おります。お困りのと  
きご利用いただけた  
ら幸いです。東高の卒

業生であることを今もとてもほこりに思っています。

(43／名村柚香) ★長男が小学校1年生、長女が年中さんです。(44／辻香織) ★今年2月に第2子が誕生し毎日てんやわんやです。(49／天野純子)

## 会費（寄付）ご協力のお願い

本年度も京阪神東雲会運営費として会員の皆様に年次会費（寄付）一口1,000円の出捐をお願いしております。総会に参加される方からは、当日参加費用に含めて会費を頂きます。昨年は当日参加の方々を含めて308名の方々からご協力を得ました。厚く御礼申し上げます。因みに本年6月現在の会費残高が347,159円となっております。会費（寄付）振込先は次の通りです。

(会長 上林武夫・会計幹事 横山毅)

郵便振込 「口座番号 00940-2-133540」

加入者名 京阪神東雲会」

お知らせ

**お知らせ** 同窓会本部の名簿発行年には当支部の全会員へ支部総会案内と会報を送付し翌年からは近況報告の葉書のあった方のみに案内を差し上げています。昨年は全会員送付の年にあたり、送付年度を平成15年度卒まで広げ2,200の方々へお送りしました。円滑な支部総会の継続のためにも返信葉書と会費カンパのご協力をお願いします。(お・係)

# 故郷へ。ぶらり途中下車



ETCの土日@1000円で都心から故郷へ車での帰省もやりやすくなりました。故郷へまっしぐらの方も寄り道をしてはいかがでしょうか。皆さんいろんなコースを工夫されています。  
あなたは、どんなコースを選んで帰省しますか。会員の皆さんのおレポートをいただければシリーズ化したいと思っています。ぜひ、原稿をお寄せください。

## 9号線の道の駅『神話の里 白うさぎ』

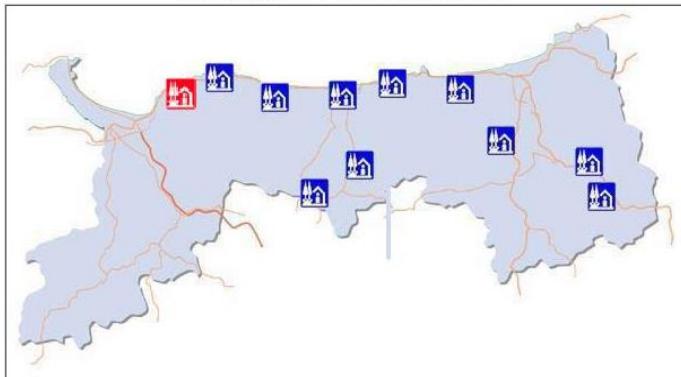
鳥取市街地を抜け、9号線を西へ10kmあまりで因幡の白うさぎの神話で有名な白兎海岸沿いに、道の駅『神話の里 白うさぎ』はある。

外観は、社造りの特徴のある建物で、店内には、地元の採りたて野菜や、新鮮な地魚、海産物加工品等が並べられている。

そこかしこで鳥取弁の会話が聞かれる、にぎやかな道の駅でした。urlは、  
<http://www.sirousagi.com/> です。

なお、鳥取県東部には他に、53号線に『清流茶屋かわはら』、29号線には『若桜』と『はつとう』の3ヶ所の道の駅があります。(中原・山20回)

 完成  整備中 (平成21年3月12日現在)



道の駅は、yahooやgoogleの検索で「道の駅」を入れるか下記のurlを入れると全国の道の駅の内容や場所がわかります。

<http://www.michi-no-eki.net/Riyosha/R-001.php>



## たつの市で食事し、南光のひまわり畑を

ぶらり途中下車！！  
どこかで聞いたようなタイトルですがドライブの途中下車の旅は如何でしょうか？

今回は兵庫県のたつの市のお薦め食事処と佐用町(南光町と合併)のひまわり畑を紹介します。

たつの市の古民家で素朴なお食事をいただきました。静かでのんびりとしていてゆったりとした時間が流れ、普段、都会の喧騒の中で暮らしているものにとっては、とても癒されました。たつの市は「赤とんぼ」の作詞・三木露風の生誕の地であり、(作曲は山田耕作でしたね)お食事をいただいたところは、「千本本陣」といい昔々参勤交代の時大名が泊まるための宿として栄えた宿場町で、かの伊能忠敬も日本地図作製のためにこの道を歩いたとか…。

urlは、  
<http://kibousha.jp/senbon/> です。



途中、ひまわり畑(何ヵ所かもあるみたいです)に寄ってひまわりを買い求め抱えて帰ってしばらく楽しみました。「南光ひまわり館」のホームページは、<http://www.sayou.gr.jp/himawarikan/> です。

8月、この地域の集中豪雨による浸水被害が報じられましたが速やかな復興を願っています。

帰省の折、色々なルートでお帰りになると思いますが、中国道山崎ICで降りて、たつの市散策などいかがでしょうか？また、他にいい所がありましたら編集部(1頁題字横に連絡先住所)までお知らせください。

(水野・山18回)

## 盛大に平成20年度総会開催 今年は26期が当番幹事

### 20年度総会！大阪プロレスの殴りこみ★彌

平成20年11月15日に大阪第一ホテルで盛会のうちに開催されました。本部から坂口校長、八村同窓会本部会長も来られました。

宴たけなわに、大阪プロレス所属ブラックバッファロー(東雲同窓生)がえべっさんと共に乱入。拍手を浴びました。



### 本年度はリバーサイドホテルで★彌

本年度は26回生が当番幹事として総会を担当します。東高を卒業して30数年が経ち、その間に鳥取での同窓会も何回か開催されてはいましたが、なかなか都合がつかないこともありますと出席もできないまま今日に至って、また、毎年京阪神東雲会が開催されているという案内も来ていたのですが、ここにも参加することなく望郷の思いだけはありました。

ところが、「今年同窓会の世話役をわれわれの学年がすることになっていて、京阪神でも開かれている同窓会の幹事もしなければならないのですが、鳥取から出て行って幹事をすることはできないので、そちらに住んでいる人に幹事をお願いしたい。」という電話(内容はこんなことであったと記憶しています。)が突然かってきたのです。

同級生からの連絡に、今までに同窓会に参加していなかったという何となく後ろめたい気持ちや懐かしさもあり、これも何かの縁かも知れないとの思いから、何気なく「いいですよ、手伝いますよ。」と、高校を卒業してから30年も過ぎて同級生との連絡も疎遠になりつつある状況下で気軽に返事をしたものの、「さて、いったい何をすればいいの？」と不安を持ちながらも、他に3名の幹事がいることとなるだらうとの思いから引き受けさせていただくことになった次第です。

心強かったのは最初は4人の幹事だったのですが、第2回の代表幹事にはなんと倍増して8名になっていたことです。新たに参加された4名は、「お手伝いだ

け」という軽い気持ちだったかもしれません、代表幹事会で山脈26回生の代表幹事であると指名され、第59回京阪神東雲会総会の運営にひと役買つていただきました。

山脈26回生の総会への参加はお世辞にも芳しいものではなく、近況報告はがきへの返信もほとんどないような状態です。

今年の当番幹事を機会に山脈26回生の参加者が増えることを願うとともに、京阪神東雲会が末永く発展できますよう微力ながら協力をまいりたいと思います。  
(山脈26回・濱田 裕章)

### 平成20年度の会計報告

平成20年度 総会関係会計 単位 円

費目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越	10,227			
総会会費	726,000			
寄付金会計	122,857			
総会費		806,295	98名	
会議費		29,700	幹事会	
通信費		7,010	切手郵送	
印刷費		12,476	インク、用紙	
事務用品費		2,973	文具等	
その他		630	振込み手数料	
合計	859,084	859,084	0	

寄付金会計 単位 円

費目	収入	支出	残高
前年度繰越金	1,041,190		
20年度寄付金 H20.4.1～H21.3.31		268,160	236件
総会当日入金分		72,000	72件
振込用紙印字サービス		3,100	
会報編集通信費		10,000	
送料2口(KRM)		1,140	
サラトデーターダウ ンロード代		20,464	
振込料		105	
関電システムソリュ ーションズ支払		866,000	
振込料		525	
本部総会出席費用		10,000	
20年総会費用補填		122,857	
合計	1,381,350	1,034,191	347,159

### ネット上の交流を 編集後記

Googleおよびyahooで『京阪神東雲の窓』を検索すると当会ホームページが見られます。ホームページで過去の総会の画像をご覧ください。また掲示板もご利用ください。本紙への寄稿も大歓迎です。カットは山崎勝彦氏(山脈12回)によります。(おかだ・係)